

公共図書館の地域共同体の形成の機能 ：時間、空間、人間の観点から図書館のコモンズ化を中心に

林 炯延
(慶一大学校；教授)

The Role of Public Library for Community Building

By LIM, Hyoung-Yeon
(Kyungil University, South Korea)

1. 研究の背景

図書館は、社会の中に存在する社会的機関である。4次産業革命という名で私たちの社会は、ITがさらに進展している。このような変化の特徴は、速度（時間）と空間（サイバー化）の革命で積極的に進められているのに対し、人間はむしろ社会から孤立化される社会的問題を引き起こしている。

人々は社会の中で忙しく迅速に活動しているが個人的に孤立していくことも増加している。結局、4次産業革命は、時間、空間の問題を超えて、人間についての問題を提起している。孤立化が社会問題となっている。このような社会環境の中で人々は、図書館に利用者が集まって共同体を形成して一体感を感じて意見を交わすことができる機会を求めている。このように図書館は、情報のサイバー化と情報の提供の役割を超え、人間のための新たな役割を求められている。

今後図書館では、これらの機能がどのように発展するのか。これが本研究の重要な主題である。ITを通じた図書館の進化は、図書館の伝統的機能である情報提供をより迅速にし、情報の保管と管理を仮想空間化する情報コモンズ化を作り出した。図書館は、物理的領域、デジタルの領域、そして人間と社会的活動領域で、IT的ネットワークの接点となった。ITの導入初期これらの形態の変化を Beagle, D. (2006) は、情報コモンズという概念で呼び、これに基づいて、図書館の構成要素を物理的コモンズ (physical commons)、仮想コモンズ (virtual commons)、文化コモンズ (cultural commons) として解釈しようとしたことがある。

しかし、図書館におけるIT機能の活性化と情報コモンズは同時に、人間の社会からの孤立化を加速している。これは人間のための図書館の新しい役割を求めている。その役割は、孤立化されている住民を再び集め、互いに相互作用するように助けてくれる地域共同体の形成機能である。図書館がITを活用した情報提供の機能も重要であるが、住民が集まり、お互いに学習し、相互作用する人間の機能も重要になっている。その結果、情報コモンズは再び、Bennett (2008) などのラーニングコモンズ概念に発展している。

図書館は、サイバースペースでの情報提供の役割を超え、物理的空間での人づくり（教育機

能)とまちづくり(地域共同体の形成の機能)を活性化し、文化的コモンズ(cultural commons)とラーニングコモンズ(learning commons)へ進化している。本研究では、これらの図書館の役割の変化を時間、空間、人間の観点から整理する。

2. 図書館の役割の変化の3つの軸：時間、空間、人間の視点

4次産業革命の変化を説明する3つの次元である時間、空間、人間の観点から図書館の役割の変化を見てみよう。IT技術を基に、時間と空間の観点からの変化は、情報コモンズ化と表示され、人間の観点からの変化は、文化コモンズ化と学習コモンズ化と表示される。

図書館は、伝統的に資料の保存機能、情報提供機能、教育機能、地域の利用者のための機能を持っている(林炯延 2010)。伝統的な図書館では、資料の保存機能と情報提供機能が強調されてきた。いわゆる空間の効用(Space Utility)と時間の効用(Time Utility)が強調されてきた。そのため、図書館を評価する際に蔵書の規模や図書館の閲覧席の数が重要な要素となった。しかし、現代では、これらの要素よりも、人間のための効用(Human Utility)が強調されている。特に急激な環境の変化は、生涯学習を通じて、個人の社会適応を要求している。したがって生涯学習の概念が普遍化されている。現代社会で、個人の能力の拡大とその要求は、高速社会への発展を達成するが、また一方では、人と人との関係が孤立される結果を招いている。図書館の社会的機能として、人間のための効用機能の強化が必要である。すなわち、図書館の教育機能と地域の利用者のための共同体形成の機能である。

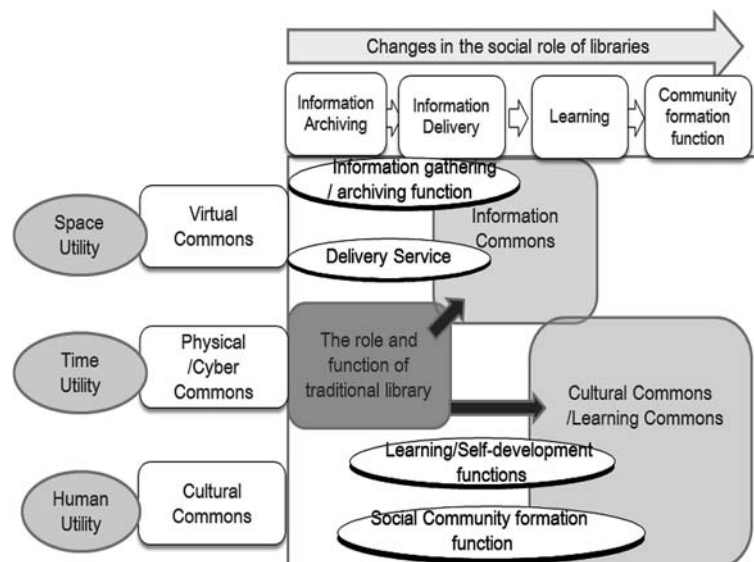
ここでは時間、空間、人間の観点から図書館のコモンズ化の傾向を(図 1-1)を通してみようとする。まず、ITによって実現されるリアルタイムの情報サービスの時間の側面と高まったサイバースペースの活用により作り出された情報コモンズ化の傾向が深刻化している。情報コモンズ化は、伝統的図書館にIT的ネットワークの接点のクラスタという概念が導入され、情報伝達の迅速性とサイバースペースの拡大によって作られたものである。情報コモンズ化は、時間と空間の面で、図書館の役割の変化を示している。ITの革命は、情報のリアルタイム伝送を日常化して、サイバースペースの活用性を高めているのである。これから人工知能の発達は、図書館の資料の管理と分類の機能などはるかに効率的に遂行することになるだろう。図書館の情報コモンズ化は時間(情報のリアルタイムの転送と供給)と空間(サイバースペースの活用)を介して現れる。

第二に、しかし情報コモンズ化は、人間の側からの感性的相互作用と共感を作り出す共同体を解体する逆機能を形成する。したがって図書館の最も重要な機能は、時間と場所の機能ではなく、社会的機能である人間の相互作用を促進する文化コモンズ化とラーニングコモンズ化へ現われる。学習コモンズ化と文化コモンズ化は、人々が対話しながら、人と人がP2P(People to People)の相互作用を介して、互いに共感し、また、学習していく共同体を形成する機能を提供する。このような機能が地域の公共図書館を中心に、地域共同体の形成機能と地域共同体のための学習機能である。今後図書館の時間、空間サービス機能は、コンテナ(Container)のIT化が進展される一方、人間のための機能、すなわち学習と共同体形成と呼ばれるプログラ

ムの開発というコンテンツ（Contents）を中心に発展するだろう。結局、今後の図書館は、情報コモンズ（Information Commons）を越えて人間のためのコンテンツの開発に焦点を置く文化コモンズとラーニングコモンズ（Learning Commons、Heitsch、Holley、2011）に発展するだろう。

情報コモンズは、IT の技術を活用して情報が利用者に伝達される機能（Heitsch、Elizabeth K、and Holley、Robert P、2011）の進化に焦点を置いたのに対し、学習コモンズは図書館を通じた人々の相互作用に焦点を置いている。Bennett、S.（2008）は、これらの機能から、図書館の使命である学習をサポートするラーニングコモンズの出現と見た。このような概念は自己主導的学習（self-directed learning）機能を通じた人づくりと地域共同体の形成の機能の出発である。今後公共図書館は地域住民の拠点として、さまざまなプログラムを通じて、地域の人づくりと地域住民の相互作用の拠点としてまちづくりの役割が重要になるだろう。

（図 1-1）図書館の文化コモンズとラーニング・コモンズへの進化



出典：林炯延（2013） 韓国の図書館情報学会発表の一部修正

3. 主な事例

地域住民は、生涯学習の機会を求め、地域共同体のメンバーになることを求めている。図書館は、利用者の変化と社会的ニーズの変化に対応してプログラムの開発に取り組んでいる。以下の事例は図書館の文化コモンズ化と学習コモンズ化の良い例である。事例の図書館は情報の伝達の役割を越えて、地域住民の共同体形成の場を作り出し、学習と教育の機能を提供している。ここでは韓国のビーモ図書館（Beomeo Library）、ヨンハク図書館（Yonghak Library）、コサン図書館（Gosan Library）の事例を通して図書館がどのように地域住民の共同体形成に役立っているかを見ようとする。

1) 図書館の生涯学習支援プログラムの事例：ビーモ図書館の「幸せな 100 歳の経営アカデミー¹⁾」

ビーモ図書館は高齢者のための生涯学習プログラムを提供している。「幸せな 100 歳の経営

アカデミー」が代表的事例である。これは、退職した後、幸せな老人の生活のために、多様な知識を教えてくれるプログラムである。講師は地域住民と作家、会社、病院からの専門知識をもつ人からなる。財務、健康、経済、余暇、人文学などの主題で第2の人生が準備できるプログラムを構成している。集まった人々は情報交換と相互交流を通して心構えと安定感が得られる。

2) 村の共同体を復元する地域共同体の形成の事例：ヨンハク図書館の「私たちの町の本分かち合いフェスティバル²⁾」

「私たちの町の本分かち合いフェスティバル」は、本を媒介に地域住民が交流し、相互に作用するプログラムである。このプログラムは、地域内の住民と子どもと機関が教育の分かち合いを介して互いに協力し、消えていく村の共同体を復元することを目指す地域共同体形成の良い事例である。フェスティバルを通して、住民と子供が地域社会の一員として所属感を体験することができる。2017年5月に開催されたヨンハク図書館の「本分かち合いフェスティバル」は、町の子供と青少年のため学校以外からも教育をサポートする意味から地域社会の22の機関や団体が協力した³⁾。

3) 地域の中疎外階層のためのコミュニケーションプログラムの事例：コサン図書館の「地球村の多文化遊び場⁴⁾」

コサン図書館は、地域の共同体の中で、疎外階層を支援するプログラムを行っている。その中で多文化家庭のためのサポートプログラムがある。「地球村の多文化遊び場」は多文化家庭に韓国の文化と言語、礼儀などを教えるプログラムだけでなく、料理と工芸体験などを通して相互作用が起きるように構成している。このような活動は韓国の文化だけを教える一方的プログラムでなく、外国の文化もお互い理解できる機会になるように構成している。また多文化家庭の利用者がプログラムの中で料理、言葉、歌、ダンスなど自分のできることを教えることで貢献できるチャンスを与えている。2017年9月9日に開かれた「地球村の多文化遊び場」ではカンボジアとベトナムの伝統的な遊びを体験してみるプログラムを行った。

4. 示唆と結論

IT機能の有効化は、図書館に新たな危機と機会を与えている。情報化の初期段階では、IT機能の活性化は、図書館の情報コモンス化を活性化させた。図書館がデジタル情報化を構築するきっかけとなった。しかし、これはむしろ、将来の図書館無用論に発展することもある。なぜなら、電子学術情報の拡大は、図書館の伝統的機能である情報提供の役割に対する効用性に疑問を投げ与えるからである。

しかし、これは図書館の新しい役割の変化への機会となっている。最近、公共図書館の役割が学習機能と地域の共同体形成の機能を中心に再照明されている。図書館は、地域住民に必要な図書館になるため、様々な変化を模索している。答えは図書館の文化コモンスとラーニングコモンスであろう。結局、図書館は利用者の生涯学習の空間となり、地域の共同体を形成する場となる。孤立化されている人間に社会で生きる力を提供する役割を行っている。

事例を通じて、次のような示唆を発見した。

第一に、空間的側面から、図書館は地域住民のため供給者の役割から利用者中心へ変化している。

第二に、時間的な側面からは、公共図書館は地域住民に必要な情報とプログラムの提供を積極的に提供している。これらの情報には、過去の本と資料を通じた情報提供から地域利用者が実際必要とする情報、生活情報、文化情報、教育情報へと積極的に変化している。

第三に、人間の側では、公共図書館は共同体の構築のために、人を集める機能に積極的にかかわっている。人々が集まって共感することに注目している。そこから図書館の意味を模索している。

情報コモンズは、時間と空間の技術革命によって行われたのに対し、文化コモンズとラーニングコモンズは、人間の学習との相互作用への要求の増加からなされた変化とみることができ。4次産業革命と呼ばれる技術革命にもかかわらず、人間は一緒に社会のメンバーとコミュニケーションして共感して生きて行かなければならない。この点で、将来の図書館は、地域住民の相互作用をサポートする社会化プログラムの開発を介して人を育て、人が地域共同体を作る好循環の拠点になることができると思われる。

注

- 1) ビーモ図書館のホームページ参照 <http://library.suseong.kr/beomeo/index.htm>
- 2) ヨンハク図書館のホームページ参照 <http://library.suseong.kr/yonghak/>
- 3) 路上公演と多様な体験空間、本のフリーマーケット、本の分かち合い展などが行われた。開かれた公演には9つの機関、合計18チームで幼児から大人まで参加し、ダンスや歌、リコーダー、オカリナの合奏などが進行された。図書館の前庭では本、CD、DVDなどを安く買うことができる市場が開かれ、またシャボン玉遊び、動物メガネとブローチ作りなどが行われた。
- 4) コサン図書館のホームページ参照 <http://library.suseong.kr/gosan/main/index.htm>

参考文献

- 林炯延. 2010. 韓国の公共図書館における児童教育的役割と児童教育プログラムにおける構成主義教授学習モデルの設計. 博士學位論文, 東京大學.
- 林炯延. 2013. 日本の図書館の役割の変化と情報公有地空間としての図書館のサービスモデル. 韓国日本教育研究, 18(1): 95-109.
- 林炯延. 2013. 日本地域教育力のインフラとしての図書館の役割の分析. 韓国日本教育研究, 18(2): 121-141.
- 林炯延. 2013. ラーニングコモンズとして日本の公共図書館の読書プログラム. 2013年度韓国図書館情報学回冬季學術發表大会, 明智大学校, 51-64.
- Beagle, Donald, D. Bailey and B. Tierney. 2006. The information commons handbook. New York: Neal-Schuman Publishers.
- Bennett, Scott. 2008. "The Information or the Learning Commons: Which Will We Have?" Journal of Academic Librarianship, 34(3): 183-185.
- Heitsch, Elizabeth, R. Holley. 2011. "The information and learning commons: some reflections." School of Library and Information Science Faculty Research Publications, Paper 76